

エコアクション21

環境経営レポート

2018年度

(期間：2018年7月1日～2019年6月30日)

発行日：2019年9月30日



株式会社 **マイスター**

<http://ymeister.co.jp>

目 次

1. 組織の概要	3
①事業所概要	
②エコアクション 21 推進体制（組織図）	
2. 認証・登録の範囲	5
3. 環境方針	6
4. 環境経営目標と実績	7
5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	10
6. 環境計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容	12
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	14
8. 代表者による全体評価と見直し・指示	15

1. 組織の概要

①事業所概要

1) 事業者名及び代表者名

株式会社マイスター

代表取締役社長 高井 糧

2) 所在地

本社工場及び第2工場 〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地 156 番地 1

横浜営業所 〒225-0013 神奈川県横浜市青葉区荏田町 1150-42

※ 第3工場（寒河江市中河原 127-1）は現在稼働していない

3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者（代表取締役社長） 高井 糧

連絡先 電話 0237-86-4500（代表） FAX 0237-86-0252

URL <http://ymeister.co.jp>

E-mail somu@ymeister.co.jp

4) 創立年月日

1976年7月1日

5) 資本金

3,600万円

6) 事業内容 精密機械部品及び切削工具加工製造

切削工具加工部品、特殊工具加工部品



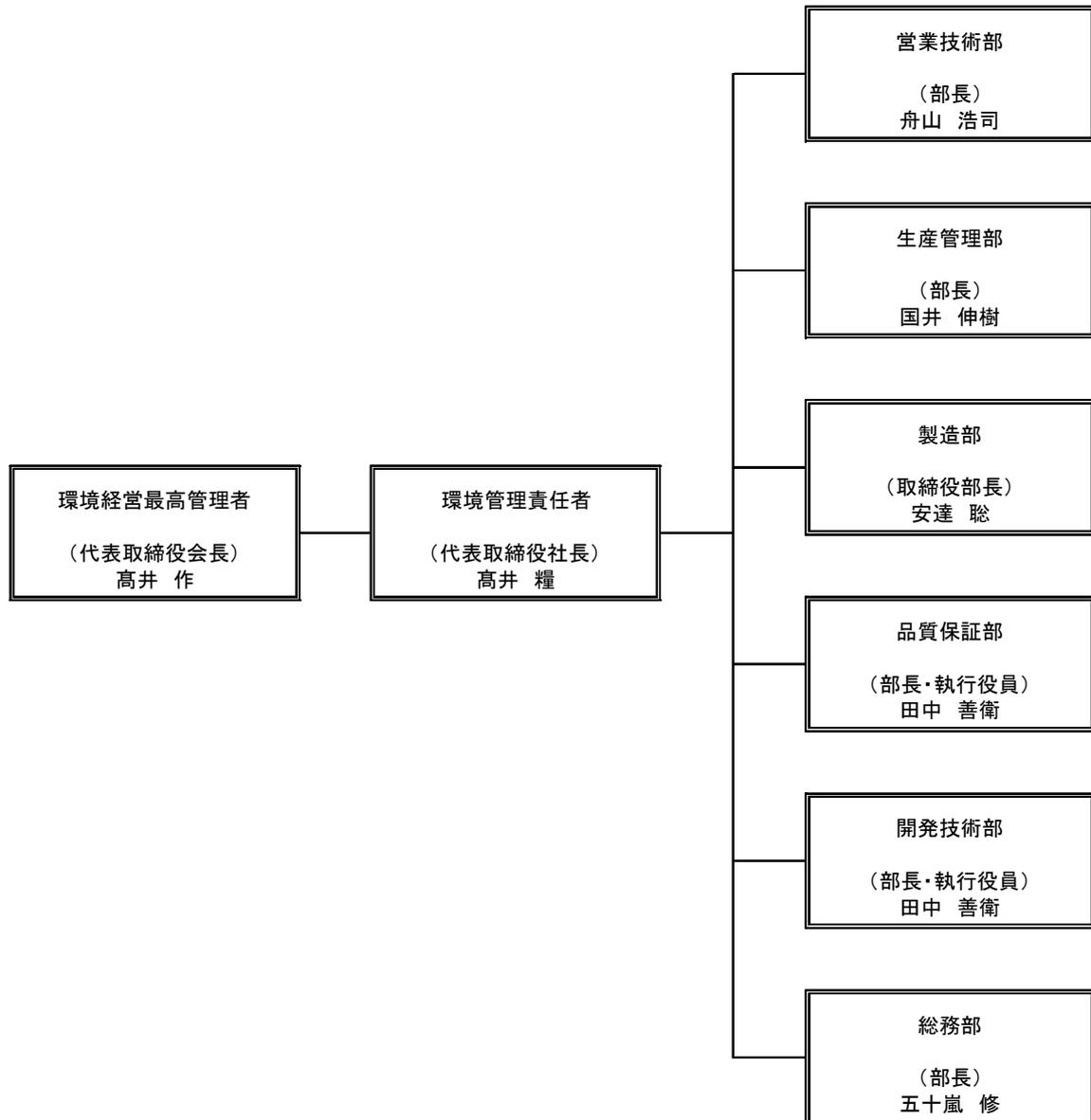
精密治工具製造、精密機械部品製造



7) 事業規模

	単位	2016年度 2016.7.1～2017.6.30	2017年度 2017.7.1～2018.6.30	2018年度 2018.7.1～2019.6.30
総売上高	百万円	893	993	1,071
月平均売上高	百万円	74	83	89
従業員数	人	62	74	81
延べ床面積	m ²	2,769.55	4,248.53	4,248.53

②エコアクション 21 推進体制（組織図）



所 属	役 割
環境経営最高管理者	全体の総括、環境方針の設定、全体の評価と見直し
環境管理責任者	全体の把握・構築・運用
総務部	記録の作成、管理、システム運用上の事務管理
全社員	環境経営方針・計画の理解と実施

2. 認証・登録の範囲

株式会社マイスター

本社工場及び第2工場 〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地 156 番地 1

横浜営業所 〒225-0013 神奈川県横浜市青葉区荏田町 1150-42

第3工場（現在未稼働） 〒991-0005 山形県寒河江市中河原 127-1

3. 環境経営方針

—— 株式会社マイスター ——

環境方針

<基本理念>

株式会社マイスターは地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、「感謝・還元・久遠の社会」を合言葉に、全組織をあげて環境負荷の低減に努力します。

<行動指針>

株式会社マイスターは精密機械部品及び切削工具加工製造に関わる全ての生産又は消費活動とこれらの製品及びサービスの環境影響を低減するために、環境経営システムにより以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、安全・安心を図り、省資源・省エネルギー・資源循環・エコライフ・製品含有規制化学物質管理などに配慮したモノづくりを行います。
2. 当社の生産又は消費活動、製品及びサービスに係わる環境関連法規、その他の要求事項を遵守し、環境汚染を未然に防止すると共に、環境経営システムと環境保全実績が継続的に改善できるように推進します。
3. 次の項目を重点的なテーマとして環境目標を設定し、状況に合わせて目標を見直すなどの効果的な取組みを行います。
 - (1) 二酸化炭素の削減
 - (2) 廃棄物の分別・削減及びリサイクルの促進
 - (3) 化学物質使用量の削減
 - (4) 総排水量の削減
 - (5) 工場周辺の清掃等社会貢献
 - (6) グリーン購入の推進
4. 環境保全関連の行政機関・団体等の環境保全施策に協力すると共に、最上川の水環境をはじめ、地域社会の環境保全活動に協力します。
5. 一人一人が環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、社内における環境保全状況の知識・認識の向上を図ると共に恒久的な環境に配慮した経営を推進します。このため、この環境宣言を全従業員に周知し、社外へも公表します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境経営システムを推進します。

改定日：2015年4月1日

改定日：2010年7月1日

制定日：2008年7月1日



株式会社 マイスター
代表取締役会長 高井 作

4. 環境経営目標と実績

●主な環境目標と中期目標、担当部署責任者

No.	重点目標	2018年度 目標	2019年度・2020年度・2021年度 目標	責任者
1	(省エネルギー) 二酸化炭素削減	売上 100万あたりの 排出量 2017年比 1%削減	売上 100万円あたりの排出量 前年比 1%削減	製造部長
2	(廃棄物削減) 産業廃棄物削減	売上 100万円あたりの 廃棄量 2017年比 1%削減	売上 100万円あたりの廃棄量 前年比 1%削減	製造部長
3	(地域社会との環境調和) 清掃等社会貢献	年 2 回実施	年 2 回実施	総務部長
4	(総排水量削減) 水使用量削減	一人当たり水量の管理 (維持目標)	一人当たり水量の管理 (維持目標)	総務部長
5	化学物質使用量 削減	使用ゼロ	使用ゼロ	製造部長
6	グリーン購入 推進	2014年割合の維持 (維持目標)	2014年割合の維持 (維持目標)	総務部長
7	リサイクル刃物の回収量	2014年 収集量を維持目標	2014年収集量を維持目標	営業技術 部長

今期は2018年1月より工場が稼働してから初めて通期で活動を行った年度となります。目標については昨年同様売上単位当たりの目標を取り入れ、今後は今年度の実績を基準として目標達成に向け取り組んでまいります。

その他、維持目標としてエコアクション21の認証以前から当社独自で取り組んでまいりましたレアメタルリサイクルも、マイスターらしい、あたりまえの活動として継続していきます。

また、数字として表すことは出来ませんが、会社として社員の健康増進をはかり、健全で働きやすい職場を作ることがひいては環境全体の負荷を軽減しエコに繋がる、という視点を経営に取り入れた『健康エコアクション』も継続してまいります。



【新たな敷地には芝桜やツツジ等が植えられました】

● 2018年度目標の達成状況

No.	重点推進項目 (削減目標)	単位	2018年度 目標	2018年度 実績	達成率 %	適合性評価 ○：目標以上 △：80%以上 ×：80%未満
1	二酸化炭素排出量 売上 100万円あたりの排出量 2017年比 1%削減	kg	538.6	530.5	101.5%	○
2	電力使用量 売上 100万円あたりの使用量 2017年比 1%削減	kWh	865.9	868.1	99.7%	△
3	灯油使用量 売上 100万円あたりの使用量 2017年比 1%削減	ℓ	9.6	9.8	98.0%	△
4	ガソリン使用量 売上 100万円あたりの使用量 2017年比 1%削減	ℓ	13.2	13.1	100.8%	○
5	産業廃棄物削減（一般） 売上 100万円あたりの廃棄量 2017年比 1%削減	kg	6.5	5.8	110.8%	○
6	産業廃棄物削減（廃金属） 売上 100万円あたりの廃棄量 2017年比 1%削減	kg	1.2	1.0	120.4%	○
7	産業廃棄物削減（廃油） 売上 100万円あたりの廃棄量 2017年比 1%削減	ℓ	13.2	1.9	694.7%	○
8	清掃等社会貢献 (地域社会との環境調和) 年2回実施	回	2	3	150.0%	○
9	一人当たり水量の管理 (維持目標)	m ³	0.62	0.86	72.5%	維持目標
10	化学物質使用量 削減 使用ゼロ	kg	0	0	100.0%	○
11	グリーン購入 推進 2014年割合の維持 (維持目標)	%	68.6	68.3	99.6%	維持目標
12	リサイクル刃物の回収量 2014年収集量を維持目標	kg	1,579	1,258	79.7%	維持目標

1の二酸化炭素排出量は、二酸化炭素排出係数を平成28年度実績の東北電力(株)調整後排出係数0.548 kg-CO₂/kWh にしております。



【隣接公園ゴミ拾い・除草・清掃作業】

●環境負荷実績

環境への負荷		単位	2016年	2017年	2018年	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg	447,530	540,272	537,460	
② 廃棄物排出量及び 廃棄物最終処分量	一般廃棄物	最終処分	t			
	産業廃棄物	廃油	t	9	11	3
		最終処分	t			
③ - 1 総排水量	公共用水域	m ³	450	1,060	630	
	下水道	m ³				
④ - 2 水使用量	上水	m ³	450	1,060	630	
	工業用水	m ³				
	地下水	m ³				
④ エネルギー使用量	購入電力（新エネルギー除く）	MJ	6,671,100	8,537,876	8,668,506	
	化石燃料	MJ	689,533	811,794	803,836	
	新エネルギー	MJ				
⑤ 製品生産量	その他	t	28.8	26.8	23.1	

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、平成 28 年度実績の東北電力(株)調整後排出係数 0.548 kg-CO2/kWh を使用しております。



【昨年、最上川河川敷で伐採した木に植えた『しいたけ』、敷地内の『いちじく』、畑耕作】

5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

1. 電力使用量削減

- ①設備電源の空転時停止
- ②工場のエアコン温度・運転の適正管理
- ③休憩時間の不使用箇所の消灯
- ④廊下やトイレの不必要な照明の消灯
- ⑤空調機のフィルターの点検清掃
- ⑥電力測定結果を踏まえ冬季間の空調稼動と機械稼動ピークを調整
- ⑦デマンド計導入による使用電力量の管理
- ⑧第2工場の照明のLED化と、一部有機EL照明の取り入れによる省電力化
- ⑨第2工場の断熱材、断熱シャッターによる保温・遮熱

当社では、ほかにも センサー付ライトをトイレ・通路などの共有スペースに設置し必要な時のみライトが点灯する、エコ対策を取っている。

2. 省エネルギー化（灯油使用量削減）

- ①室温設定管理
- ②ウォームビズ・クールビズの励行
- ③夏・冬の省エネ県民運動への参加
- ④食堂スペースをパーティションで区切り食事の際の空調無駄の削除。

事務所エリアの空調は灯油炊きのエアコンを使用しており、灯油使用は、そのスペースに限られることもあり、事務所を中心に取り組んでいる。食堂スペースも、空調のロスを避けるため随時パーティションで区切り管理している。

3. 省エネルギー化（ガソリン使用量削減）

- ①寒河江自動車学校より 専門講師を招き、全社員にエコドライブ講習を実施。
- ②アイドリングストップ
- ③エコドライブ項目実施
(携行環境方針にエコドライブ10記載)
- ④営業車燃費カードを配布、給油時の燃費を計算。



【エコドライブ講習】

4. 廃棄物削減（一般廃棄物）

- ①廃棄区分毎の分別
- ②小まめな分別後の廃棄実践
- ③ゴミ箱の統一と表示
- ④廃棄物の再利用
- ⑤通い箱化の推進
- ⑥梱包資材の再利用
- ⑦ダンボールの回収（リサイクル業者による）



【再資源化のための分類】

可燃物・不燃物と言う分類はもとより、再資源化を強く意識した廃棄物の分類により、ゴミではなく『資源』という認識を持ち、リサイクルの流れを作っている。業者さんも100%資源化を謳う業者さん優先に依頼。また、ダンボールをリサイクル業者による回収に変更し、社員の自宅からもダンボールの持ち込みを推奨するなど、会社だけではなく社員個人の環境活動に役立っている。交換したトイレットペーパーも会社で利用。

5. 省資源化

- ①両面コピーの活用
- ②裏面の再利用
- ③パソコン・電子メールの活用
- ④保管書類のPDF化



【ダンボールの回収】

6. グリーン調達

- ①エコ商品カタログの活用（グリーン商品リストからの購入）
- ②エコ商品への切り替えの推進

同じ使うなら、グリーン商品・環境にやさしい商品を選ぶという女性の視点を生かし、エコ商品を選択。

7. 環境調和

- ①工場周辺の清掃（寒河江市で造成した公園のゴミ拾い草刈り）
- ②最上川水質保全活動・環境に優しい洗剤の継続使用
- ③里山保全活動
- ④屋上緑化
- ⑤敷地内植樹活動
- ⑥廃瓦を利用した駐車場（保水性が高い）
- ⑦地元の原木を利用した休憩スペースの床板
- ⑧緑の募金活動（(公財)山形県みどり推進機構）



【緑の募金】

特に、環境にやさしいといわれる洗剤は、汚れは水に流れ、排水溝の汚れも微生物が分解していくので、ぬめりや黒ずみがつきにくくなる。また、その先の川や海でも、微生物がゆっくりと浄化するので、汚れを落とすだけではないまさに地球を洗う洗剤である。その他、緑の募金活動も行い、集めた募金は財団により様々な緑化活動に役立てられている。

8. 総排水量削減

- ①手洗い水と洗剤の節約
- ②消雪の自動運転を廃止、手動での稼動に切替える。

手洗い場の蛇口は、殆どがセンサー式のため余分な水を使わない。また、女性トイレには音姫を採用、女性と、水量削減 両面に配慮。

9. 生物多様性の保全と利用の取り組み

- ①会社構内の畑耕作と野菜の栽培



【会社構内の畑耕作】

6. 環境計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

- 前期は第2工場の建設工事があり、その工事のため社内の水道、電気を使用したことで変則的なデータとなりました。そのため、今期は初めて通年稼働による取り組みとなり、年間を通したデータを取得することができました。達成状況としては、工場面積の増加により水道、電気の使用量は増えましたが目標をほぼ達成しております。但し、繁忙状態だった前半に比べ、後半は操業の非効率さによる伸び悩みが見られました。来期は消費電力軽減のための室外機屋根の設置、空調設備の高効率化、本社工場のLED化等の検討を行い、さらに環境に配慮した活動を行っていききたいと思います。

また、当社から始まった取り組みであるレアメタルの回収については、維持目標という形で目標に組み込んでおります。これは、当社がエコアクション21の認証以前から取り組んで来た分別回収すれば資源、捨てれば金属ゴミと言う思想に、お取引先の賛同を得ている結果であり、今後もマイスターらしい環境への取組みとして継続してまいります。

- 今期の二酸化炭素削減結果は、売上100万円あたり前年比1%削減に対して達成率101.5%とわずかに達成となりました。全体的な達成率は電力使用量が99.7%、灯油使用量については98.0%、ガソリン使用量は100.8%と、昨年からはほぼ横ばいの結果となっております。大幅に売上が増加したにもかかわらず目標の達成に至らなかった原因として、第2工場稼働のため空調面積が広がったことにより電力使用量が増加したこと、猛暑により事務所、生産管理エリアの空調利用が増加したことなどが挙げられますが、気温差による形状の変化を防ぐため常に一定の温度を保つ必要があり、電力量を抑えることはできませんでした。今後はこれまで続けてきたクールビズ・ウォームビズの徹底、デマンド計導入による空調温度の管理などに加え、現在の灯油炊き空調から電気式空調への入れ替えによる空調設備の高効率化、冬は積雪による霜取り運転を減らし、夏は直射日光による温度上昇を防ぐ熱交換効率アップのための室外機への屋根の設置、燃費の良い営業車への入れ替えなど二酸化炭素削減の努力を継続してまいります。
- 産業廃棄物につきましては、全体的に目標を達成することができました。一般廃棄物や廃金属については、前期の突発的な工場移設に伴う廃棄物や廃金属が発生しなかったことが挙げられます。また廃油に関しても、昨年機械を第2工場に移設するに当たり、その機械の中の油を全て抜き廃油として廃棄処分した点と夏季休暇前と年末の2回行っている廃棄の年末の分が、次回に繰り越されたことがあげられます。廃棄物についても今期の実績を基準とし、活動を継続してまいります。

- 社会貢献活動として工場周辺の街路樹清掃等を行なっております。マイスターでは年2回の会社全体の取組である工場周辺の清掃活動のほか、新入社員やインターンシップ生の方にも環境活動への大切さを学んでもらうために工場周辺の清掃を行っており、エコアクションの取り組みは教育と実践の場となっています。また、マイスターのみの活動ではなく、工業団地周辺の学校や事業所等と協力して地域環境の美化と浄化として灌水、除草、清掃活動等も行っており、今後も継続してまいります。



【地元高校生と植栽活動】

- 総排水量については、市水のみでの管理としております。維持目標として2014年を基準としておりますが、会社面積や設備の増加、そして人員の増加により現状にそぐわない目標となっており、来期より今期の実績を基準とした目標にしたいと考えています。
- 化学物質使用量の抑制・管理では、社内規定の「含有化学物質管理規定」により、材料の購入から製造、出荷にいたる管理を行い、内部監査により検証をしています。引き続き管理を行い、使用ゼロを継続してまいります。
- エコ商品購入率については維持目標となっております。用品調達担当者がエコ商品の目標管理者となり、必要な消耗品等を購入する際などはグリーン商品マークの付いた物から最優先で購入するという意識を持ち、前年の購入率一覧表を机の上に設置する等、責任を持って取り組んでおり今後も継続してまいります。
- 工場内緑化のための取組みとして、会社構内に畑を区画し、季節の各種野菜を栽培、社員により耕作から収穫までを行っております。恒例のビアパーティーでは枝豆に加え、トウモロコシ等が振舞われるなど、毎年種類も豊富になってきております。他にも玉ねぎ、ニンニク、聖護院カブ、赤大根、ミニトマト、ししとう、なすなど、会社で収穫した食材を社員に配りました。これらの食材が食卓に並ぶことによって、環境活動としての緑化だけではなく、食による健康意識の高揚にも一役買ってまいります。そして、第2工場周りについても緑化区域を広げ、新たに陽光桜や照手桃などたくさんの草木を植え、来社されるお客様の目を楽しませています。
- その他、手洗い石鹸に界面活性剤を全く含まない、環境への害がない洗剤を採用しています。



【工場内の畑で取れた聖護院カブ】



【ビアパーティーではトウモロコシが振舞われた】



【第2工場緑化地内の芝桜】

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

(1) 当社に適用となる主な環境関連法規

法令等の名称	活動内容	評価
下水道法	公共下水道使用開始届の提出	○
消防法	少量危険物等貯蔵取扱届出書の提出	○
西村山広域行政事務組合火災予防条例		○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	産業廃棄物マニフェストによる管理 産業廃棄物の委託契約の締結 ①産廃物が飛散、流出、地下浸透しない措置をする ②保管場所に掲示板(60cm×60cm以上)	○
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	家庭用機器の長期間使用とリサイクルのための特定廃棄業者への引渡し	○
使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	自動車の長期間使用と再資源化配慮した購入選択	○
工場立地法	特定工場新設(変更)届出書の提出	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	①対象空調器の簡易点検の実施(1回/3か月)、圧縮機出力7.5kW以上のものついて、定期点検の実施(1回/3年) ②機器更新時に、適正・確実な回収・破壊	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)	対象物質の排出量・移動量を把握	○
RoHS指令、ELV指令等 含有化学物質規制	製品への含有化学物質禁止規制	○
国等による環境物品等の調達の推進に関する法律(グリーン購入法)	環境負荷の物品調達の選択	○

(2) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

2018年度において環境関連法規等は遵守しており、違反はありません。
また、関係当局からも特に指摘は無く、過去14年間、訴訟も同様に有りません。

8. 代表者による全体評価と見直し・指示

- 今年度は昨年の経営目標である「働き方改革で年商 10 億円突破」を達成し、創業後初の売上高 10 億円を達成することができました。また、環境活動についても目標をほぼ達成するという結果を得ることができました。しかし、この環境活動の結果は、売上金額が前年度を大きく超える結果であったこと、そして、昨年 1 月より第 2 工場が稼働したことによって全体的な前年度比目標が下がった事が大きく起因していると考えられます。しかし、第 2 工場が稼働し従業員も大幅に増え、生産管理部門の立ち上げなど新たな組織を構築し、当社の目指す I o T を活用した高効率な生産を行う土台はできつつあります。今後は今年度の実績を基準とした目標の達成に向けて取り組みを続けていきたいと思います。

当社の製品はお客様の生産の効率化に寄与するためのものです。それはお客様の環境、ひいては世界の環境負荷を低減することに貢献します。当社の道具を使っていただくことで環境活動の展開を広めていきたいと思います。

- 環境への取組としては、新たに整備した敷地に陽光桜や照手桃などの植樹を行い、緑化面積も増やしました。それに伴い、隣接公園からの景観の美化にも貢献しております。また、これまで取り組んできた工場周辺の清掃活動や隣接公園の清掃なども回数を増やし、地域と連携した活動も増えてきました。今後も地球環境に優しい環境保全に力を入れてまいります。
- 当社のエコアクション 21 の取組は 14 年目となり、前回から 2017 版のガイドラインによる審査に移行しました。この新たなガイドラインは環境保護と業績アップの課題とチャンスを見出すことが大事であり、経営面にも重点を置く活動となっております。これまで行ってきた環境活動を会社の成長にも繋げていくよう取り組みを向上してまいります。



【2019 年 5 月 山小屋訪問】

